

平成
26
年度

「石垣の塩」の品質向上と新バリエーション 開発のための設備導入計画

当社は石垣島の海水を100%使った天然塩「石垣の塩」を製造・販売している。火を使わずに海水を蒸すなど独自の手法で顧客の評価を得ているが、このたびは新しい機械設備を導入し、新商品の開発に成功した。さらに石垣の海水を生かして商品のバリエーションを広げるためにもこの設備を活用していきたい。

企 業
データ

株式会社石垣の塩

■所在地: 〒907-0024 沖縄県石垣市新川1145-57 ■代表者名: 代表取締役 東郷 清龍 ■TEL: 0980-83-8711 ■FAX: 0980-82-5585
■URL: <https://www.ishigakinoshio.com> ■設立年: 平成9年 ■資本金: 9,200万円 ■従業員数: 45人 ■業種: 食料品製造業

経 緯

当社は石垣島で採取した海水のみを使った無添加の天然塩を製造し、卸・小売を含めて商品の90%は県外に販売している。通常このような塩づくりは海水を火にかけて水分を飛ばしながら煮詰めていき、最終的に塩の結晶に仕上げる手法が一般的である。

しかし、当社では海水を火にかけることをせず、三日三晩かけて蒸し上げて、ゆっくり結晶化する方法で作っている。この方がまろやかでおいしい塩になる上、当社ではこの自然塩生成装置および生成方法で特許も取得している。

ただ当社商品「石垣の塩」は、粒度の変更など小回りの利いた多品種の生産には至っておらず、市場が求める商品作りに対応するために、品質の向上と新バリエーションの開発が必要となっていた。さらに石垣の豊かな自然の恵みでもある海水の100%活用も当社の念願であった。そこで新商品の開発に取り組むこととした。



石垣の海水を使って独自製法で天然塩を製造



導入した製塩用機械設備

成 果

機械設備導入後も試行錯誤を繰り返すなどの努力を重ねた結果、当社の既存の製塩装置とあわせた製法により、目標値を上回る品質の塩を析出することに成功。さらに商品製造に要する時間を大幅に短縮することができた。また、導入した各装置を調整してバリエーションのある塩も作れるようになった。

そのひとつがシーバターである。これは粒度の小さい塩で、食用はもちろん肌に塗ることも可能なほどなめらかである。105種類のミネラルを含んでおり、人間の体が必要とするミネラルの補給に効果があると思われる。化粧品材料としての需要も期待できる。

さらに食べやすくして簡単にミネラル補給ができるミネラルゼリーの開発にも取り組んでいる。

今後の展望

社会環境やライフスタイルの変化で市場が求める商品も幅広くなったが、バリエーションのある塩づくりが可能になったので、積極的にイベント等への出展や営業活動に取り組んでいきたい。そして、国内はもとより、香港や中国などの海外にも販路を拡大したいと考えている。

事業内容

平成26年度のものづくり補助金を活用して、小型蒸気釜や攪拌機、固液分離機等を導入した。そして長年にわたり培ってきた塩作りの経験やノウハウを元に、品質向上と粒度の変更など新バリエーション品の開発に取り組んだ。

平成
27
年度

沖縄離島への多品種サイズ ペットボトル容器製造ラインの導入

石垣島は飲み物や観光土産などの商品の容器としてペットボトルの需要が増えている。従来は島外から仕入れていたが、その非効率性と高コストが問題になっていた。当社ではこの問題解決のためにペットボトルの自社生産を行うこととし、他社への供給も念頭にペットボトルの製造装置を導入した。



代表取締役 東郷 清龍

経緯

国内屈指の観光地である石垣島では飲料をはじめ食品や土産物など、ペットボトルを容器とした商品の販売が伸びている。

一方、離島である石垣島の食品メーカーはこうしたペットボトルを主に県外から船便などで仕入れているが、空のペットボトルはその形状から「空気を運んでいるようなもの」と揶揄されるほど、かさばるわりには内部は空洞で、その空気を運ぶために高いコストをかけるのは不合理といった非効率な材料仕入れとなっている。

こうした背景から、石垣島内でペットボトル容器を生産することで、仕入コストの削減を図るべきという声が高まっていた。当社でも塩の製造工程で大量に生産される「にがり」をペットボトルに詰めて販売しており、その容器の自社生産を模索していた。それが可能になれば他社製品用容器の生産にも道が開け、ひいては石垣島全体のペットボトル容器仕入れに関する高コスト問題の解決につながるのではないかと考え、ペットボトルの製造装置を導入した。

事業内容

平成27年度のものづくり補助金を活用してペットボトル成型装置を導入した。これはブロー成型機、成型金型、高圧・低圧コンプレッサー、チラーユニットなどで構成されており、500ml～2Lのペットボトル製造に対応する。また金型を変えることで、ジャムやコンポートなどのペット大口ボトルの製造にも使用が可能である。



導入したペットボトル成型装置

成果

今回の機械装置導入の一番の目的である、当社工場から大量に生産される「にがり」の充填保管のため、500mlと2Lの金型を用意し、ペットボトルの生産量と機械装置の操作が可能であることが確認できた。

さらに塩工場の従業員でも塩工場の生産シフトとペットボトルの生産ラインのシフト調整が可能であることを確認できた。さらに熟練を要さず誰でも機械操作ができるよう、作業マニュアルの作成にも取り組んでいる。



中身も容器も自社製品となる

今後の展望

導入したペットボトル成型装置では、金型を変えればさまざまな形のボトルを作れることが確認できた。その結果、従来容器としてビンを使っていた商品への応用もできると考えている。たとえば石垣島土産として人気のラー油など調味料の容器をペットボトルに変えれば島外からビンを仕入れる必要がなくなり、安くて軽くて割れない商品となる。

このように石垣島の多種多様な商品の容器として普及に努めたい。

2事業を振り返っての感想

平成26年度27年と連続してものづくり補助金を活用できたことで、当社が温めていた計画の事業化が早まったのは大変ありがたかった。また、当社では現在、医薬部外品の製

造・販売の許可を得るべく準備を進めており、それにも弾みがつくと考えている。いずれは製造した医薬部外品を自社生産のペットボトルに入れて販売することも考えており、その実現も視野に入ってきている。